



International Organization of Securities Commissions
Organisation internationale des commissions de valeurs
Organização Internacional das Comissões de Valores
Organización Internacional de Comisiones de Valores
المنظمة الدولية لهيئات الأوراق المالية

IOSCO/MR/35/2022

2022年11月16日

IOSCOによる「ファンドの流動性リスク管理改善のための提言」の実施状況レビュー

証券監督者国際機構(IOSCO)は本日、2018年に公表された「ファンドの流動性リスク管理改善のための提言」(IOSCO提言)のうち選ばれた提言について実施状況の評価するテーマ別レビューを公表した。IOSCO提言は、集団投資スキーム(CIS)の流動性リスク管理をグローバルに強化させることを目的としている。

IOSCO代表理事会議長のジャン・ポール・セルベ氏(ベルギーFSMA)は、「効果的な流動性管理は、投資家の利益を守り、集団投資スキーム(CIS)や市場の秩序及び頑健性を維持し、システムリスクを低減するために不可欠である。したがって、効果的な流動性管理は、金融安定に資する。IOSCOは、適切な流動性管理が実施されるよう、引き続き業界やIOSCOメンバー、他の国際機関と連携していく。」と述べた。

本レビューでは、より大きな法域ほど、IOSCO提言の目的と統合的な形で、より高い水準の規制要件を課していることが明らかになった。集団投資スキーム(CIS)の設計プロセスに関して、取引頻度や取引関連のアレンジメント、開示慣行に関するいくつかの課題を特定している。日常的な流動性管理に関しては、一部の法域では、流動性不足の発生を事前に特定するプロセスに改善の余地があり、投資戦略や流動性プロファイル、償還方針を整合させるためのさらなるガイダンスが必要である可能性がある」と指摘している。注目に値するその他の分野としては、データの利用可能性や流動性指標を提供するサードパーティーを挙げている。コンティンジェンシー

プランに関しては、各法域で流動性管理ツールの利用可能性の向上にさらに取り組み、現行のルールや規制を補完して、こうしたツールの使用に関するより具体的な要件を含めるべきとしている。

さらに、本レビューによれば、責任主体(すなわち、資産運用業者)が、運営方針と実務の両面において、IOSCO提言の内容を高い水準で実施している。大規模でグローバルな責任主体はいずれも、IOSCO提言と統合的な実務を行っていると回答しているが、他方、より小規模で比較的资源の少ない責任主体については、集団投資スキーム(CIS)の設計プロセスにおける流動性開示に関する定めについて改善を要する可能性がある。コンティンジェンシープランの運用や流動性リスク管理ツールの発動においても、いくつか不十分な点が特定された。

IOSCOアセスメント委員会議長のシャロン・ケリー氏(ケベックAMF)は、「アセスメント委員会の作業は、IOSCOとそのメンバーにとって非常に重要である。国際基準は、適切に実施されなければ効果が発揮されない。本レビューの結果は、この分野におけるIOSCO提言が概ね適切に実施されていることを示している。それでも我々は、各法域と責任主体の双方に対し、本報告書が特定した残された課題に対処するよう求めていく。」と述べた。

本レビュー結果は、金融安定理事会(FSB)が2017年に公表した「資産運用業の活動から生じる構造的な脆弱性に対応する政策提言」に関するFSBの実効性評価の取組みに関連する情報として提供された。

NOTES TO THE EDITORS については省略。